

## 使い捨ての容器包装ごみを出さないサービス リユース・リフィルとは？

リユース・リフィルとは、新しいものではありません。例えば、牛乳瓶やビール瓶は、回収・洗浄して何度も繰り返し使われています(リユース)。ラーメン、お寿司なども店内用の容器で自宅まで届けてくれて、使用後は軽く洗って家の前に出しておく、お店の方が回収してくれるサービスがありました。今でもこのサービスが残っている地域もあります(リユース)。それから、酒やお味噌なども、自分の容器を持って行って、中身だけ購入(リフィル)することができるお店もあります。

こうしたすでにある仕組みに加えて、IoT(Internet of Things)と呼ばれるモノのインターネットなどが活用されています。

\*IoT:様々な「モノ(物)」がインターネットに繋がれ、モノ自体がインターネットのように情報交換することにより相互に制御する仕組み

## 世界、日本の事例を紹介



© Matthias Balk / Greenpeace

## 1.自分の家でリフィル(詰め替え)するモデル



米国のBlueland(ブルーランド)は、石鹼や洗剤などを固形タブレットで販売。自宅にある容器にタブレットと水を入れて使用するタイプのもや、そのまま洗濯機に投入して使用するタイプのものなどがあります。中身だけをリフィルでき、プラスチックの容器ごみが出ません。固形タブレットは小さいので、家での保管もスペースを取りません。

引用: <https://www.facebook.com/liveblueland/>



米国のBevi(ベビ)は、オフィスなどで、好きな飲み物をマイボトル(自分の容器)で中身だけ購入することができます。自動販売機の代わりにBeviの販売機があれば、容器を使い捨てずにいろいろな飲み物が提供されます。

引用:

[beveragedaily.com/Article/2020/03/05/Bevi-cuts-150-million-bottles-and-cans-from-the-workplace](https://beveragedaily.com/Article/2020/03/05/Bevi-cuts-150-million-bottles-and-cans-from-the-workplace)

## 2.外出先でリフィル(詰め替え)するモデル



チリのAlgramo(アルグラモ)は、お店や移動販売で洗剤や食品などを量り売りで販売。自分の好きな容器や、RFIDチップが入った専用の容器(容器で支払いができる)で中身を必要な分だけ購入することができます。使い捨て容器の削減になり、必要な分だけ買えます。

引用: <https://www.facebook.com/Algramo/>



イギリスのWaitrose(ウェイトローズ)では、UNPACKEDと銘打ったプラパッケージなしのコーナーがあり、洗剤、お酒、小麦などを量り売りしています。野菜・果物などもプラパッケージなし。自炊が増えても、家庭ごみが増えることはありません。



### 3. 自宅で返却できるモデル



米国のLoop(ループ)は、リユースできる容器を使用して、食料品、化粧水やシャンプーなどのセルフケア用品、洗剤などのホームケア用品を購入できるプラットフォームで、牛乳瓶配達の仕事をもとにつくられました。東京でも近々本格的な実証実験が開始予定です。

引用: <https://www.facebook.com/terracyclejapan/photos>



イギリスのDabbaDrop(ダッバードロップ)は、リユースの容器で食事を配達してくれる、登録式のサービス。定期登録をすると、自分で設定した日時に食事が配達され、次回の配達の際に容器が回収されます。

引用: <https://www.facebook.com/DabbaDrop>

#### 4.外出先で返却できるモデル



米国のVessel Works(ベッセルワークス)の仕組みを導入したカフェでは、返却式のステンレスタンブラーでコーヒーやラテが購入できます。手ぶらでカフェに行き、カフェで好きな飲み物を注文。利用者は飲み終えたタンブラーを回収ボックスにそのまま返却し、タンブラーは回収・洗浄され、再使用されます。

引用：<https://www.instagram.com/vesselwrks/>



イギリスのRePack(リパック)は、返却式の包装で、開封後は包装をポストへ入れて返却。オンラインでの購入が増えても、容器包装ごみが増えることはありません。

引用：<https://www.facebook.com/OriginalRePack/>